

[巻頭言]

荒川清秀教授・功刀由紀子教授のご退職にあたって

岩崎 正弥

Preface to the Thanks for the Retirement of Prof. Kiyohide ARAKAWA and
Prof. Yukiko KUNUGI

Masaya Iwasaki

2020年3月末をもって、荒川清秀教授、功刀由紀子教授のお二人が退職されます。荒川教授は1977年度から43年間、功刀教授は1995年度から25年間本学に奉職されました。2011年度に地域政策学部が新設された際、荒川教授は国際コミュニケーション学部から、功刀教授は経営学部から移籍され、9年間本学部で教鞭をとられたこととなります。研究・教育の長いご経験に裏付けられた知見によって、本学部の設置構想から始動期、そして今日に至るまでご尽力いただいたことを、一教員として心より感謝申し上げる次第です。

お二人の略歴は別途提示されている通りですが、ここでも簡単にご紹介しておきます。

荒川教授は中国語教育学会の会長をお務めになったほか（現顧問）、NHK ラジオ講座、テレビ講座では何度も講師を担当された斯界の第一人者です。2018年には中国政府より「中華図書特殊貢献賞」を受賞されるなど、その功績は国内にとどまりません。そんな著名な先生に専門が異なる地域政策学部で教鞭をとっていただいたことは、学生のみならず教員にとっても大変刺激的でした。研究業績に見られるように、中国語を通して日本語との比較研究や、さらに文化にまで射程を広げたご研究をされています。本学部では、初年次教育のほか専門ゼミもご担当いただきましたが、とりわけ初年次の「学習法」では、例えば原発問題など社会問題までも扱われたと聞いています。著名人であるにもかかわらず、先生と呼ばれることを嫌い、年若い私などにも「荒川さん」と呼ぶように言われていました。気さくなお人柄から、年齢を感じさせない青年のような若々しさをい

つも感じていましたし、リベラル・アーツへの理解を私は荒川さんによって深めることができました。

功刀教授は、文科系の地域政策学部にあつて数少ない理科系の研究者としてご活躍いただきました。もともと食品生化学がご専門であったということですが、本学部ではもっぱら食品安全政策やリスクコミュニケーションに関する講義を担当いただきました。特に2000年代以降、BSE問題に端を発して食品安全問題は理科系と文科系を繋ぐ科学として重要性を増しています。公共政策の新たな重要テーマだと言ってもいいかもしれません。先生は常々、文科系学生にも理科系思考の重要性を強調されていますが、本学部でその実践をしていただけたのではないかと考えています。実際2018年度に立ち上げた「食農環境コース」の構想にあたっては、学問ベースだけでなく、その豊富な社会活動で培われた知見や人脈を有効に活用していただき、カリキュラムづくりにも大いに貢献してくださいました。先生は「日本女性科学者の会」の会長や内閣府男女共同参画連携推進会議議員を歴任されるなど、ジェンダー問題にも造詣が深く、女性が少ない本学部にあつて貴重なご意見を多数いただいたことも申し添えておきたいと思います。

70歳定年は現状の社会実態からすれば長いと言えるかもしれませんが、人生100年時代と言われる今日、これからは雑務に煩わされず自由に研究その他に専念できる時だともいえます。両先生の今後のご活躍を心より祈念しています。

